

高砂香料工業株式会社

2024年3月期 第2四半期(上期) 決算説明会

証券コード:4914

2023.11.29

目次

- I. 2024年3月期 上期業績**
- II. 2024年3月期 通期業績予想**
- III. 資本政策についての考え方**
- IV. 設備投資**
- V. Appendix**

I. 2024年3月期 上期業績

2024年3月期 上期業績

[単位：億円]

	2023/3 上期業績	2024/3 上期業績	前期比	為替影響除く 前期比
売上高	952	986	+3.5%	△1.8%
売上総利益 売上総利益率	285 29.9%	279 28.3%	△2.1% △1.6P	— —
販売管理費	237	264	+11.1%	—
営業利益 営業利益率	48 5.0%	15 1.6%	△68.0% △3.5P	△68.7% —
親会社株主に帰属する 当期純利益	54	21	△60.8%	—

期中平均為替レート

USD :	123円	135円	+12円
EUR :	134円	146円	+12円

Point!

売上高：円安による海外子会社の売上高押し上げにより増収。
 売上総利益率：価格転嫁は進めているものの、それを上回る原料費および人件費等の上昇により減益
 販売管理費：主要な増加費目は人件費等が+9.2億円、研究開発費が+6.8億円

地域セグメント

[単位：億円]

	売上高				営業利益			
	2023/3 上期業績	2024/3 上期業績	前期比	為替影響 除く 前期比	2023/3 上期業績	2024/3 上期業績	前期比	為替影響 除く 前期比
日本	382	378	△1.2%	-	21	6	△71.8%	-
米州	229	253	+10.4%	△0.6%	6	2	△67.2%	△69.0%
欧州	165	156	△5.7%	△13.4%	10	△7	-	-
アジア	176	200	+13.5%	+6.2%	13	13	△1.9%	△9.0%
調整	-	-	-	-	△2	1	-	-
合計	952	986	+3.5%	△1.8%	48	15	△68.0%	△68.7%

Point!

日本：売上高はアロマイングリディエーツ部門が停滞した。利益面では原料費高騰、人件費増加等により減益。
 米州：1Qの3億円赤字から黒字転換。価格転嫁や経費抑制等により売上総利益が改善し業績回復。
 欧州：フランス子会社の1Qからの赤字拡大。
 アジア：1Qに続き好調な売上を実現した。インフレ等によるコスト増により営業利益は横ばい。

地域セグメント(日本)

[単位：億円]

売上高

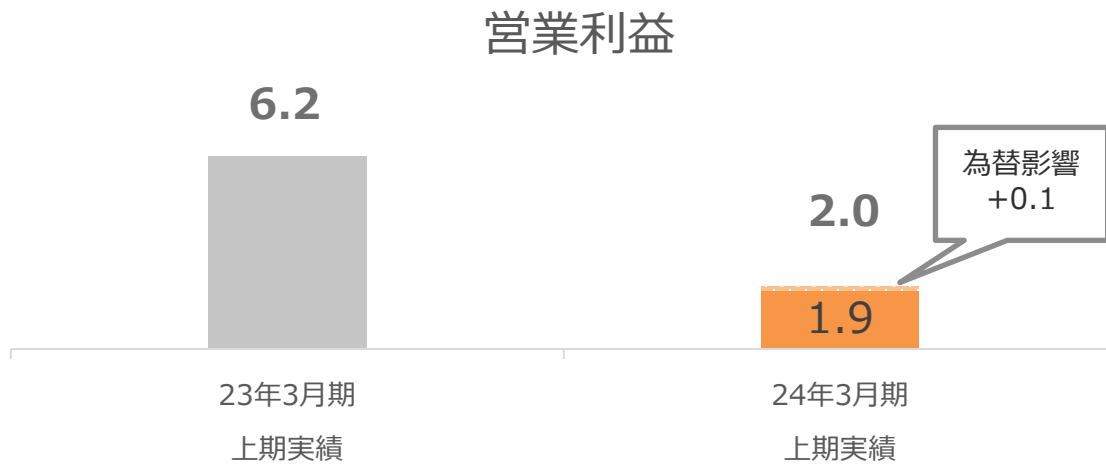
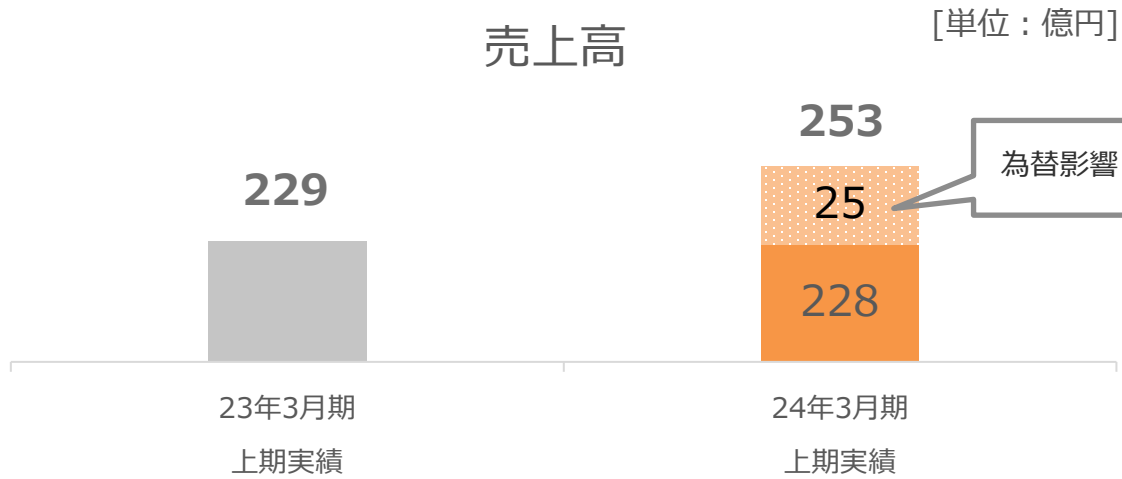


営業利益



- **売上高△1.2%**
 - フレーバー部門：前期好調だったコーヒー関連の売上が減少したものの、その他飲料関連が増加し、全体では横ばい
 - フレグランス部門：ランドリーケア関連等が堅調に推移
 - アロマイングリディエント部門：メントール関連が停滞
- **営業利益△71.8%**
 - 原料費高騰、人件費増加等により減益

地域セグメント(米州)



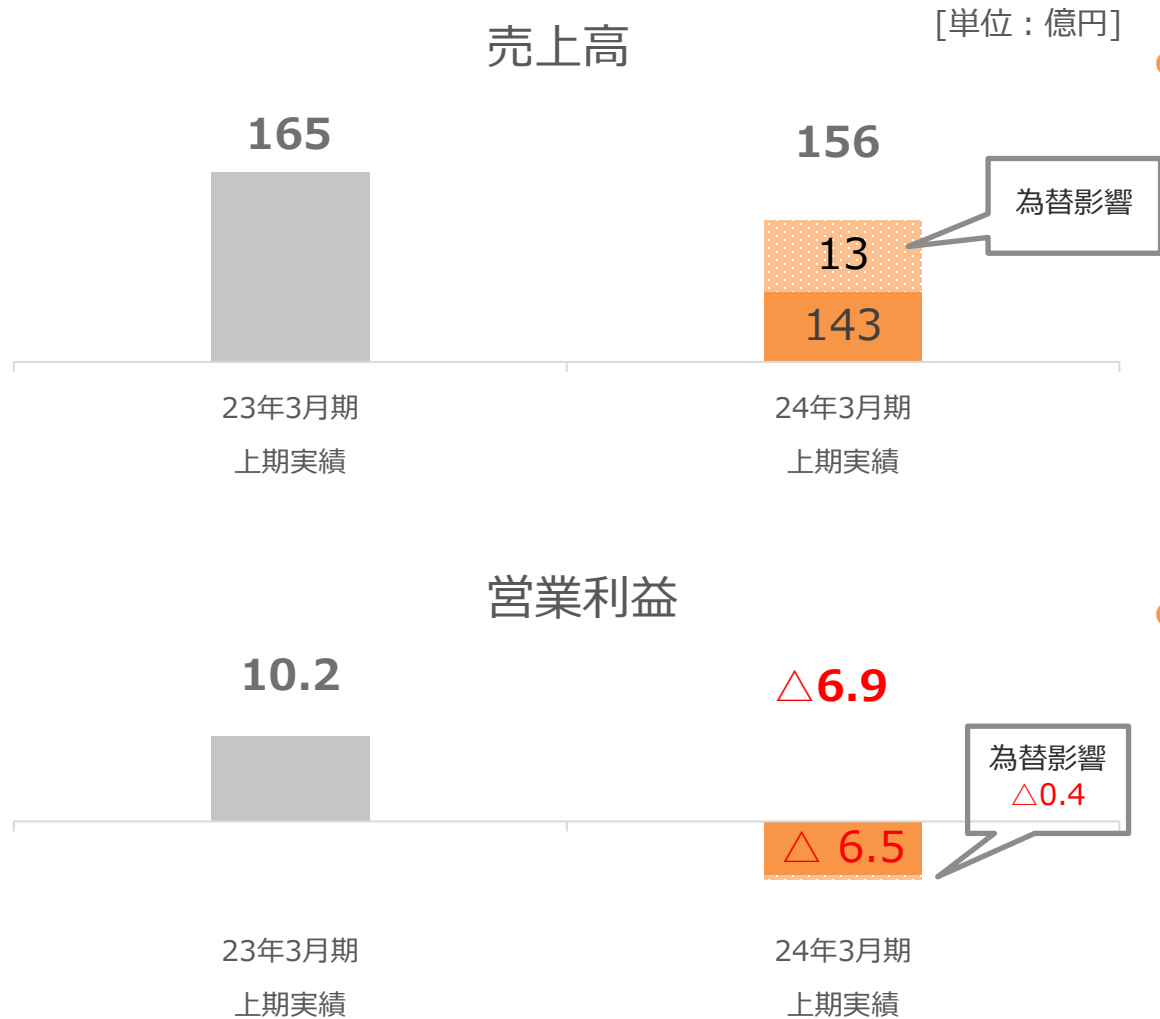
- **売上高+10.4%**

- 増収ではあるが、為替影響を除くと0.6%の減収。米国が引き続き景気後退の兆しをみせており、インフレによる消費者の混乱が続いた。

- **営業利益△67.2%**

- 減収、売上原価上昇、販売管理費上昇で大幅減益。ただし、Q1の-3.1億円から、Q2は+5.1億円と足元は利益面で回復基調となっている。Q2黒字化の要因は、価格転嫁等による売上総利益改善に加え、経費抑制による業績回復。

地域セグメント(欧州)



- **売上高△5.7%**

- フレーバー部門：一部転売ビジネスの減少等により減収
- フレグランス部門：顧客の在庫調整等によりファインフレグランス関連が減収
- アロマイングリディエント部門：一部ビジネスが日本セグメントに移管したことにより減収

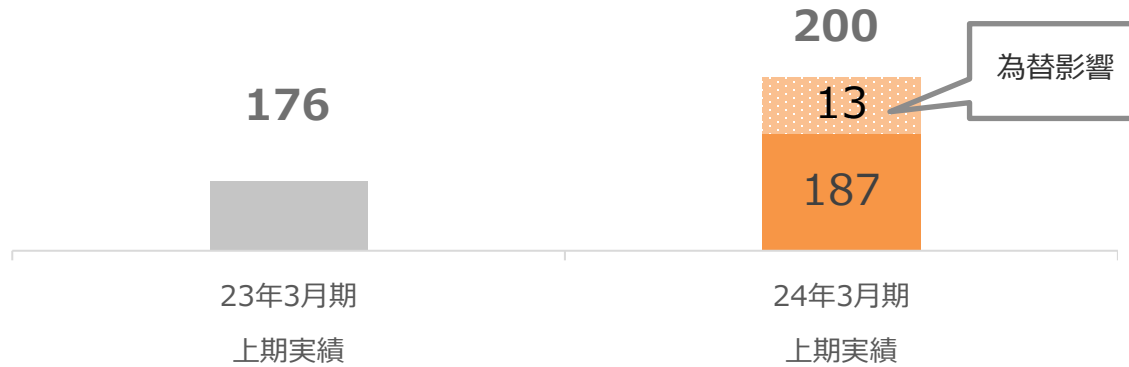
- **営業利益 赤字転落**

- フランス子会社等の減収に加え、原料費高騰等により赤字

地域セグメント(アジア)

売上高

[単位：億円]



● 売上高+13.5%

- 1Qに続き好調な売上を実現した
- フレーバー部門：飲料関連が堅調に推移
- フレグランス部門：インドネシア子会社の新規製品獲得が増収に貢献

営業利益



● 営業利益△1.9%

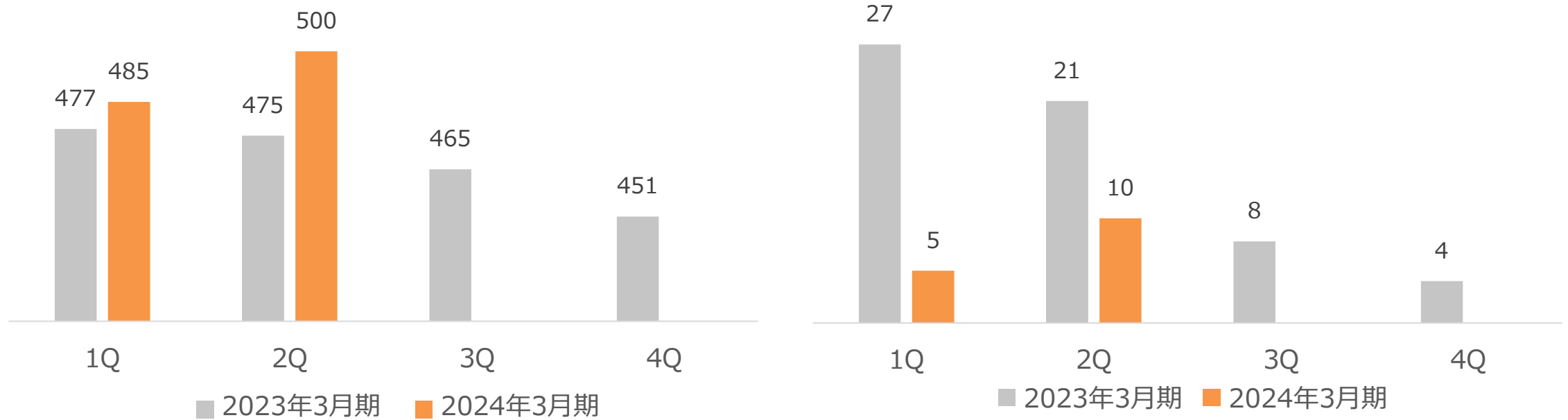
- 増収による利益貢献があったものの、インフレ等によるコスト増により前期並み

四半期決算推移

売上高

営業利益

[単位：億円]

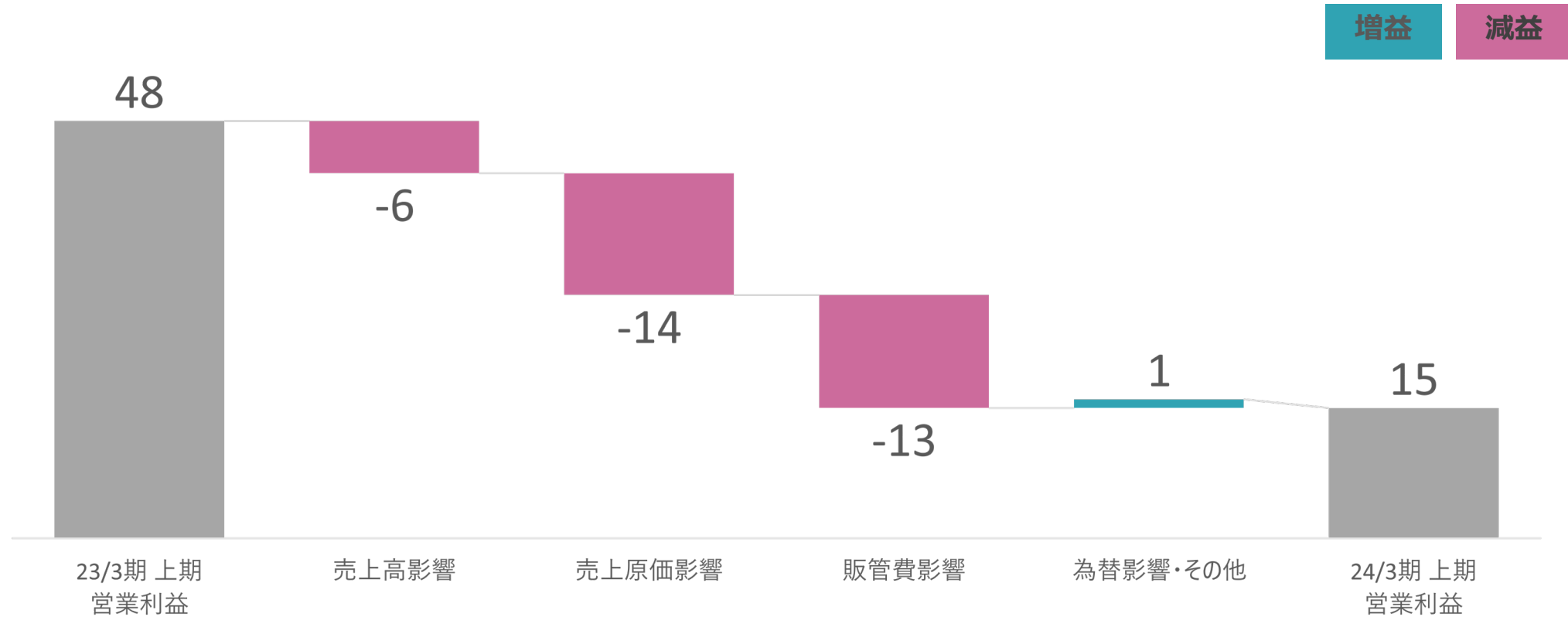


Point!

- 売上高：アジアセグメントの好調および、為替影響による押し上げにより1Q、2Qともに増収。
- 営業利益：1Qに続き2Qも前年同期比減益となったものの、2Qは米州が1Qの赤字から黒字転換したことにより、対今期1Q比で利益改善。

営業利益の増減分析

[単位：億円]



Point!

為替影響を除くと減収のため、減益影響。
原料価格高騰に加え、販管費増加が拡大し、これをカバーするだけの販売数量増加および価格転嫁が進まず、営業利益は前期比68%減の15億円で着地。

II. 2024年3月期 通期業績予想

為替の前提、感応度

● 為替の前提

	2023/3	2024/3		
	通期実績	期初予想	上期実績	通期予想
U S D	131円	140円	135円	140円
E U R	138円	140円	146円	152円

● 為替感応度 (1円円高/円安のケース)

● 売上高に対する影響

- USD = 約5億円減収/増収
- EUR = 約2億円減収/増収

● 営業利益に対する影響

- USD = 約16百万円減益/増益
- EUR = 約6百万円増益/減益

2024年3月期 通期業績予想

[単位：億円]

	2023/3 通期業績	2024/3 通期予想	前期比
売上高	1,868	2,000	+7.1%
営業利益 営業利益率	59 3.2%	40 2.0%	△32.2% △1.2P
経常利益	80	43	△46.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	74	37	△50.0%

期中平均為替レート

USD :	131円	140円	+9円
EUR :	138円	152円	+14円

Point!

- 引き続き売上は堅調に推移し、過去最高売上を更新する見込み
- 原料高騰やエネルギー価格の上昇、人件費の増加など各種経費の増加があり、利益は減少

地域セグメント

	売上高			営業利益		
	2023/3 通期業績	2024/3 通期予想	前期比	2023/3 通期業績	2024/3 通期予想	前期比
日本	715	730	+2.1%	23	10	△56.6%
米州	469	500	+6.6%	7	5	△28.6%
欧州	319	310	△2.8%	8	△8	-
アジア	364	460	+26.4%	23	28	+21.7%
調整・その他	-	-	-	△1	5	-
合計	1,868	2,000	+7.1%	59	40	△32.2%

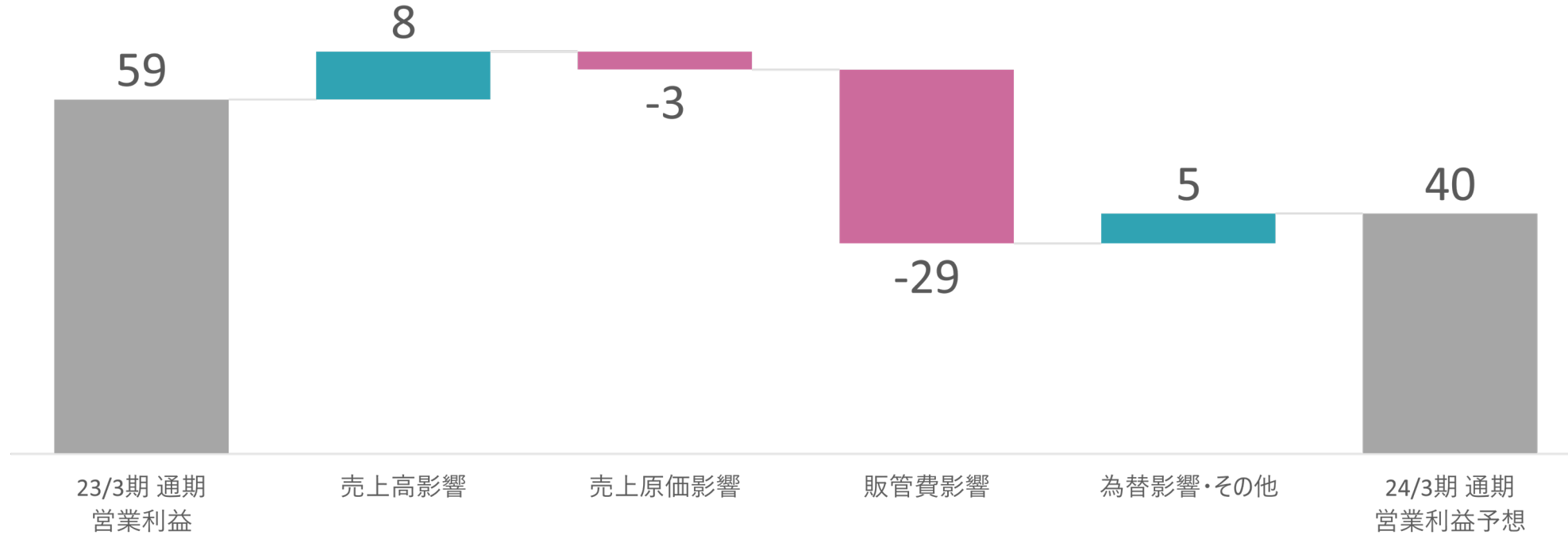
[単位：億円]

Point!

- 欧州除くすべての地域で増収を達成見込み
- 営業利益に関しては、地域によりばらつきあり

営業利益の増減分析

[単位：億円]



Point!

原料価格・エネルギー価格の上昇やインフレによる各種経費増のほか、将来のビジネス発展のための人員強化もあり、2024年3月期は減益となる見込み

設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位：億円]

	2023/3 実績	2024/3 予想
設 備 投 資	82	110
減 価 償 却 費	74	80
研 究 開 発 費	142	160
売上高研究開発費率	7.6%	8.0%

Point!

- 設備投資：維持更新投資が中心
- 減価償却費：システム関連の償却費が増加
- 研究開発費：海外拠点を中心に増加

Ⅲ. 資本政策についての考え方

2024年3月期 剰余金の配当（中間配当）の決定および期末配当 予想の修正

2023年11月9日開催の取締役会において、以下のとおり、2023年9月30日を基準日とする剰余金配当（中間配当）を行うことを決議し、また2024年3月期の期末配当予想につき修正することとしました。

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向け、資本コストを意識した資本構成および資金配分の最適化の観点から、必要な資本政策を実施しております。

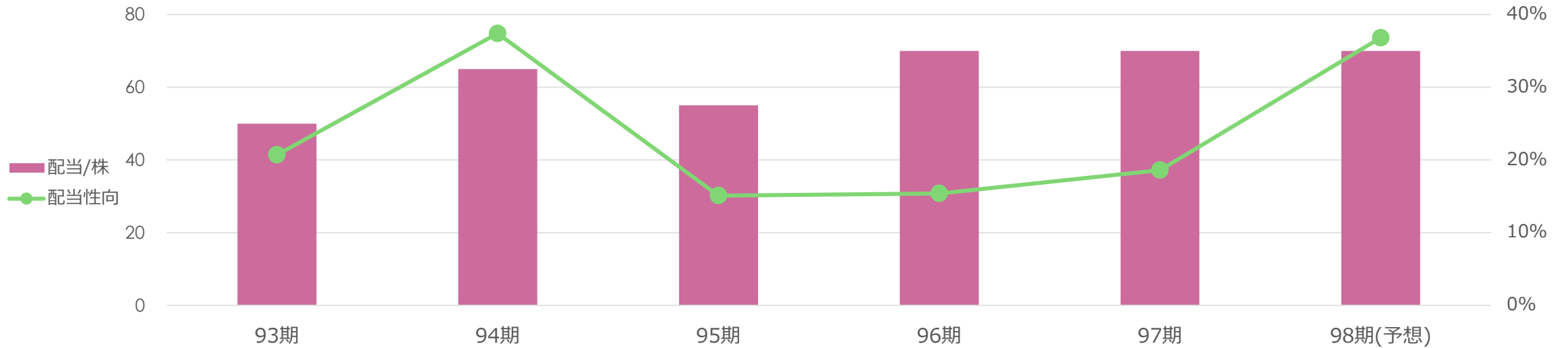
通期連結業績予想値は修正しませんが、当社の事業計画における必要な資金需要、成長への各種投資、株主還元の強化等のバランスを総合的に勘案した結果、2024年3月期の中間配当ならびに期末配当予想を増額し、年間70円00銭に修正することといたします。

上記配当予想の修正は、東証が示した「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の一環として行うものであります。今後の具体的な取り組みについては、次期中期経営計画にて種々検討を進めた上で、2024年3月に公表を予定しております。

基準日	1株当たり配当金（円）		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想（2023年8月9日）	25円00銭	30円00銭	55円00銭
今回修正予想	—	35円00銭	70円00銭
当期実績	35円00銭	—	—
前期実績（2023年3月期）	25円00銭	45円00銭	70円00銭

配当実績及び2024年3月期配当予想

	93期	94期	95期	96期	97期	98期(予想)
配当/株	50円	65(50)円	55円	70円	70円	70円
配当性向	20.7%	37.4% (29.4%)	15.1%	15.4%	18.6%	36.8%



※94期は100周年記念配当を実施

IV. 設備投資

合成事業生産体制の再構築



- 概要
 - 磐田工場1工場跡地にファインケミカル事業の医薬品中間体製造の設備投資約80億円を予定
- スケジュール
 - 2024年4月 工事着工予定
 - 2025年8月 工事完了予定
- 背景
 - 磐田工場1工場では医薬品中間体の主力商材の製造を行っていたが、最終製品が終売。その後、取壊し工事をし、将来の活用方法について検討を重ねてきた
- 目的
 - ファインケミカル事業の生産能力増強により成長を促進
 - 海外、特に米国大手製薬会社からの旺盛な需要に対応
 - エネルギーや水の使用量削減を設計コンセプトとし、環境へ配慮した持続可能な生産体制の構築

本日は、ありがとうございました。

※注意事項

本資料は、2023年11月29日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先：IR/広報室
TEL: 03-5744-0523 FAX:03-5744-0512
<https://www.takasago.com/ja>
E-mail: ir@takasago.com

V. Appendix

創業精神

技術立脚の精神に則り社会に貢献する

企業理念

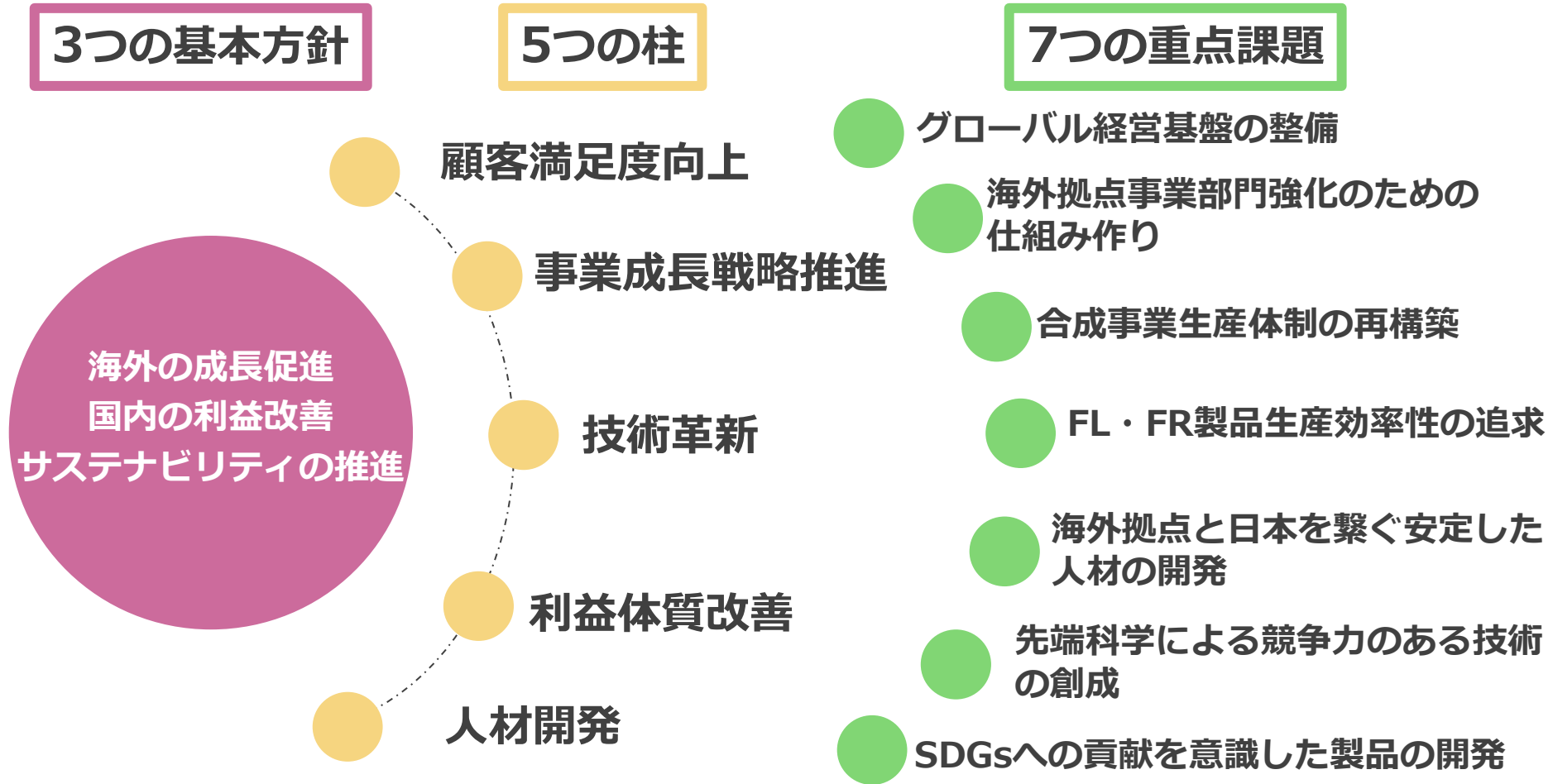
香りを原点とする革新的な技術を通して、
新しい価値を創造し続ける

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

New Global Plan-1 【NGP-1】 2022年3月期～2024年3月期



各事業の特徴

	フレーバー	フレグランス	アロマ イングredients	ファイン ケミカル
製品用途	飲料、製菓、スープ、 デザート等食品全般	衣料用洗剤・柔軟剤、 化粧品、芳香剤等	香料の原料 (フレーバー、 フレグランス)	医薬品中間体、 機能性材料、触媒、 農薬中間体
主要得意先	食品メーカー	日用品メーカー 化粧品メーカー	同業他社、自社使用	医薬品メーカー 電機電子メーカー
競合先	香料会社(同業)等	香料会社(同業)等	香料・化学メーカー、 天然品市場(メントール)	化学メーカー等

【参考】事業セグメント情報

[単位：億円]

	売上高			営業利益		
	2023/3 上期業績	2024/3 上期業績	前期比	2023/3 上期業績	2024/3 上期業績	前期比
フレーバー	544	564	+3.7%	25	15	△39.1%
フレグランス	274	293	+7.0%	△2	△15	-
アロマイング リディエント	67	62	△8.0%	9	3	△63.6%
ファイン ケミカル	61	60	△0.3%	9	5	△39.7%
その他	7	7	△1.8%	6	6	△0.2%
合計	952	986	+3.5%	48	15	△68.0%

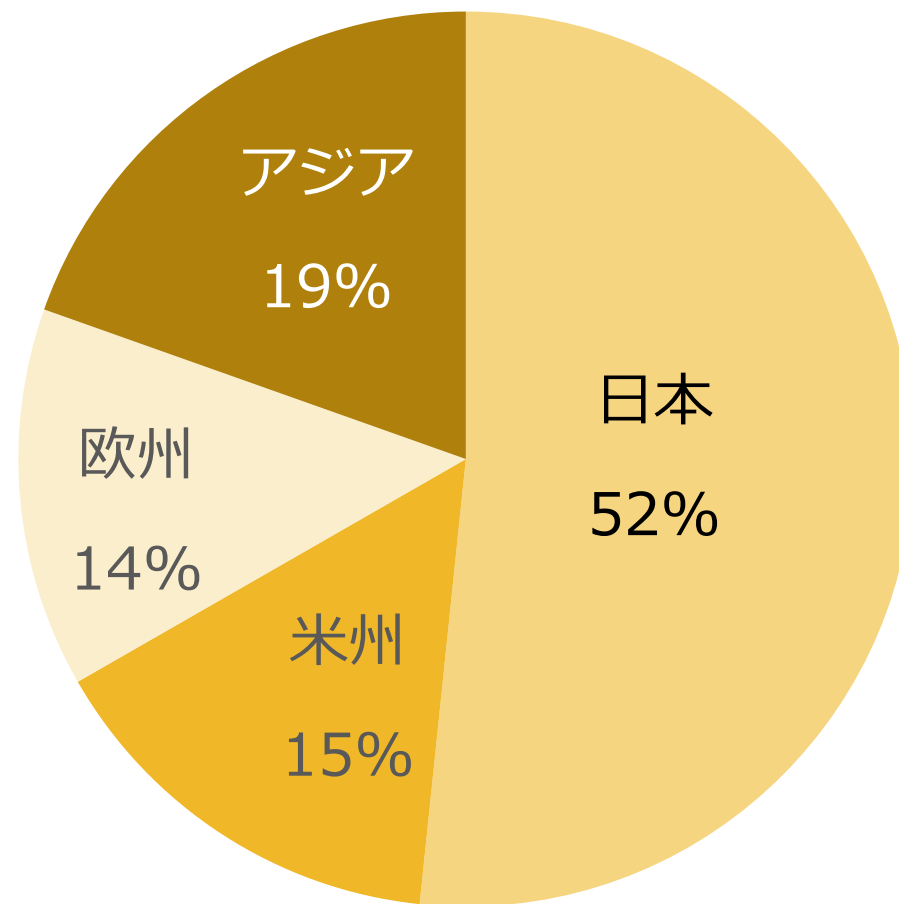
一定のルールに基づいた社内資料を基に作成。今後数値の精緻化を推進。

【参考】事業セグメント情報

[単位：億円]

	売上高			営業利益		
	2023/3 通期業績	2024/3 通期見込	前期比	2023/3 通期業績	2024/3 通期見込	前期比
フレーバー	1,056	1,124	+6.4%	29	23	△20.7%
フレグランス	564	615	+9.0%	△12	△17	-
アロマイング リディエンツ	119	100	△16.0%	14	8	△42.9%
フ ァ イ ン ケ ミ カ ル	115	146	+26.9%	16	14	△12.5%
そ の 他	14	14	-	12	12	-
合 計	1,868	2,000	+7.1%	59	40	△32.2%

一定のルールに基づいた社内資料を基に作成。今後数値の精緻化を推進。



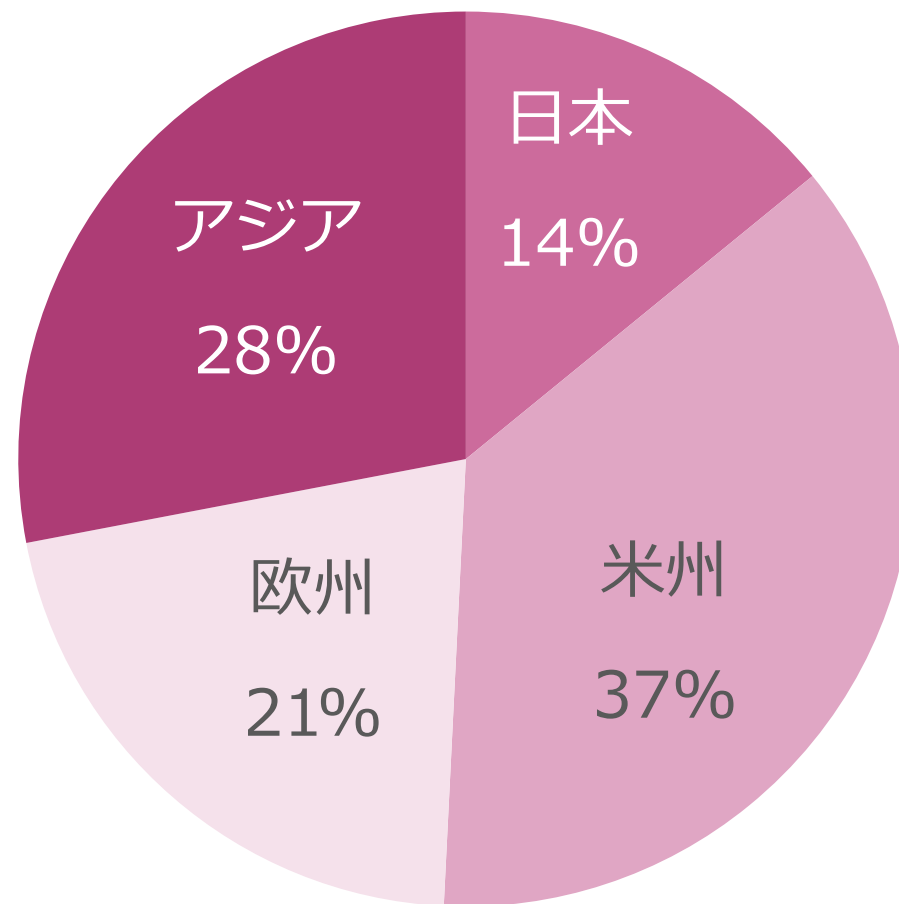
※2024年3月期第2四半期

目標

- アジア・フォーカス
- フレーバーを超えたフレーバー “Beyond Flavor”の開発
- 天然素材ポートフォリオ拡充

施策

- フォーカスする地域、フォーカスする得意先でのプロジェクト獲得のため、リソースの集中
- 健康志向の高まる市場に対応し、減塩、減糖、代替肉製品を“KOKU”やマスキング等の技術を活かしたソリューションの提供
- 天然素材製造のための既存設備の増強及び新規設備投資の実施



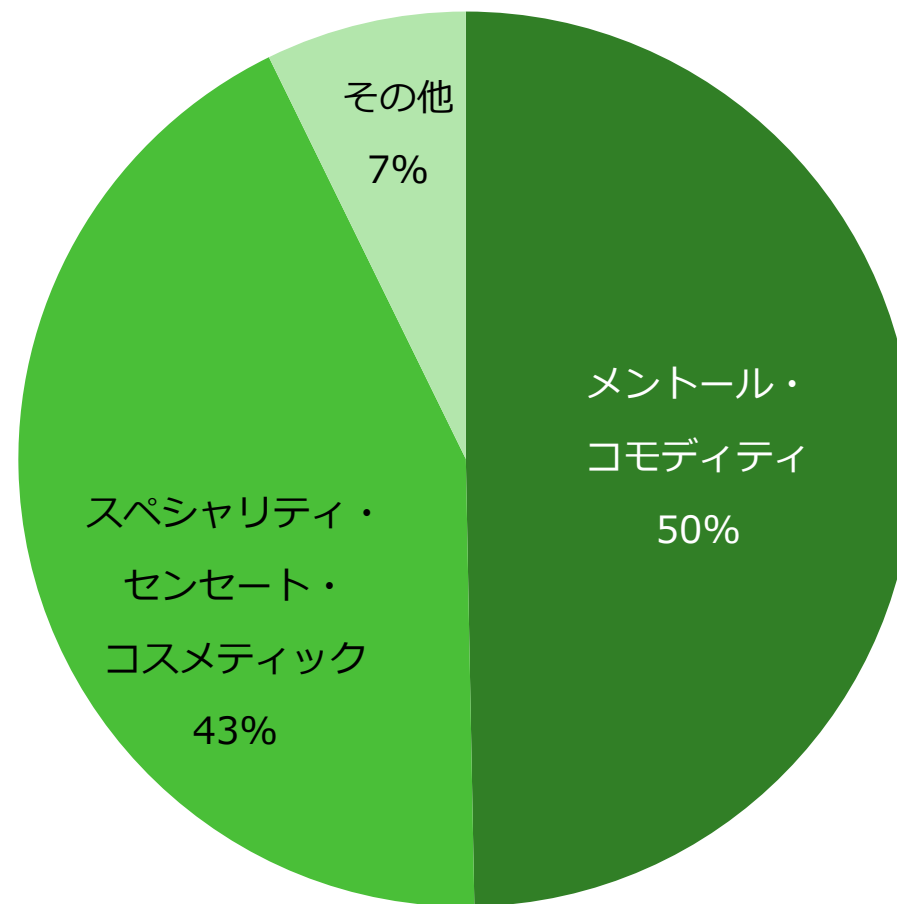
※2024年3月期第2四半期

目標

- 事業成長戦略推進（製品・得意先・地域）
- 利益体質改善
- 香りの付加価値を高める技術の活用

施策

- ターゲットカテゴリー、エアケア、パーソナルケア、ファブリックケア及びマルチナショナル・主要ローカル得意先へのリソースの集中
- 販売価格の適正化及びコスト削減施策による利益体質改善
- Well-being(心身の健康)・Hygiene(衛生)に繋がる香り周辺技術や、サステナビリティ・SDGs等に配慮した高付加価値香料開発による競争力強化



※2024年3月期第2四半期

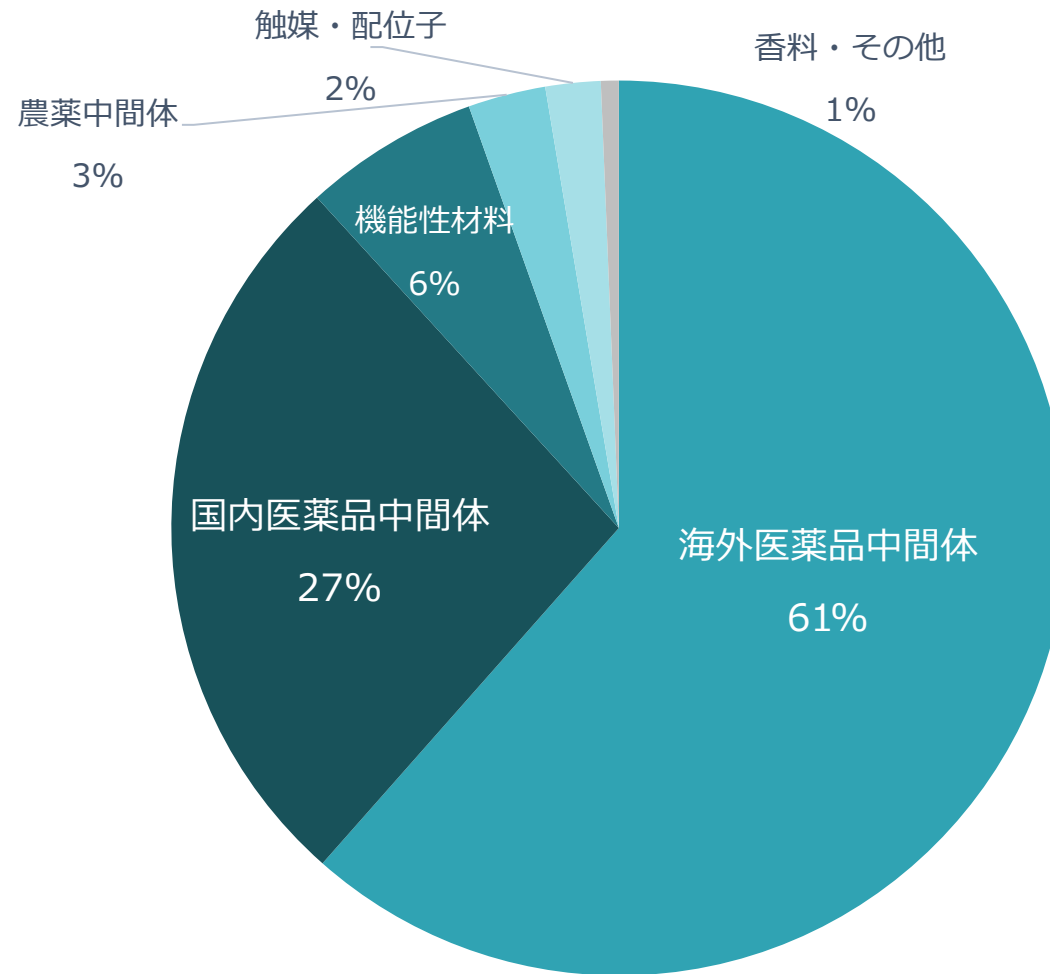
目標

- サステナブル、循環社会への対応強化
- スペシャリティによる製品ポートフォリオの拡充

施策

- 化石原料由来の既存AI（アロマイングリディエント）品目の BIOSWITCH®（プロセスや原料変更による再生可能なAIへ変換）や バイオ技術による天然由来AI品の開発
- 生分解性を有する再生可能AI品の開発
- 害虫忌避剤等の新規市場への展開

ファインケミカル事業 カテゴリ別 当社売上実績



※2024年3月期第2四半期

目標

- ポートフォリオ（得意先、製品、技術）の拡充
- サプライチェーンの強化

施策・進捗

- 既存設備の強化による需要増への対応を完了
- 連続フロー技術の深化及び触媒技術との融合
- サプライチェーンの再構築

国内外パートナーとの連携強化を推進中

目標

- 先端科学による競争力のある技術の創成
- SDGsへの貢献を意識した製品開発

施策

- オープンイノベーション推進による最新技術の確立・活用
- 生理心理・官能評価技術、計算科学・人工知能等を活用した独自性の高い情報資産創出の加速
- 環境負荷軽減、エネルギー効率に配慮したプロセス開発
- 再生可能資源や未利用資源を利用した素材・製品開発

東証の要請「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」(2023年5月 IR説明会)

要請内容	対応状況
Q1 : 経営層が主体となり、資本コストや資本収益性を十分に意識しているか	A1 : 資本コストはWACCで算出し、定期的に経営会議等で確認している。投資計画にあたっては、資本コストを踏まえ投資の妥当性を検証している
Q2 : 研究開発投資の状況	A2 : 研究開発および技術開発力の推進を図り、知的財産の確立を目指している。オープンイノベーションの推進ならびに独自性の高い情報資産の創出に取り組んでいる
Q3 : 人的資本への投資の状況	A3 : 新しい価値を創出し続けるため、多様な人材が特性や個性を活かし、いきいきと働くことのできる環境づくりを進め、多様性の推進や人材育成に努めている
Q4 : 事業ポートフォリオの見直し等の取組みの推進	A4 : 売上高や営業利益等の数値目標や実績のほか、事業ごとの戦略などについて取締役会で審議している
Q5 : 資本収益性や市場評価の改善に向けた方針	A5 : 2023年3月末時点で、当社のROEは6.4%、PBRは0.42倍。改善に向け様々な対応を進めていく
Q6 : 具体的な取組みや、施策の実施時期	A6 : 次期中期経営計画にて資本収益性や市場評価に関する目標値を設定すべく、種々検討を進めていく

東証の要請「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」(2023年11月 IR説明会)

要請内容	対応状況
Q7 : コーポレート・ガバナンス報告書への反映状況	A7 : 2023年6月に提出したコーポレート・ガバナンス報告書の「コードの各原則に基づく開示」欄において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応状況について記載している
Q8 : 要請に基づく英文開示の状況	A8 : 現時点では英文による開示を行っていない。2024年6月に開示を予定している
Q9 : 資本政策の状況	A9 : 当社「コーポレートガバナンスに関する基本方針」第5条に基づき、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向け、資本コストを意識した資本構成および資金配分の最適化の観点から、必要な資本政策を実施している。次期中期経営計画では、社会情勢を踏まえ、成長への各種投資、株主還元の強化等のバランスを総合的に勘案して対応していく